

会 議 録

会 議 名	八王子市社会福祉審議会児童福祉専門分科会 子どもにやさしいまちづくり部会 平成27年度 第4回会議	
日 時	平成28年 2月 1日(月) 午後 5時00分～ 7時00分	
場 所	八王子市役所 本庁舎 802会議室	
出席者氏名	委 員	井上仁部会長、中込順子副部会長、荒井容子委員、石田健太郎委員、岡崎理香委員、立石晴美委員、田中伸幸委員、(部会長、副部会長、以下五十音順)
	関連所管	
	事 務 局	平塚子どものしあわせ課長、橋本子育て支援課長、佐藤児童青少年課長、福田子ども家庭支援センター館長、本間主査、川上主査、坂井主査、井垣主査、他
欠席者氏名	後藤高浩委員	
議 題	報告 1 八王子市義務教育就学児医療費助成制度について 2 平成27年度八王子市木育推進事業について 議事 1 「子どもにやさしいまちづくり」について	
公開・非公開の別	公開	
非公開理由		
傍聴人の数	1名	
配付資料名	○平成27年度八王子市木育推進事業について ○子どもにやさしいまちづくりの推進 (別添)八王子市義務教育就学児医療費助成制度	
会議の内容	別紙のとおり	
会議録署名人	平成28年 3月11日 立石晴美	

【井上部会長】 それでは開会いたします。

初めに報告事項の義務教育就学児医療費助成制度について、事務局から説明をお願いします。

【橋本子育て支援課長】（資料「八王子市義務教育就学児医療費助成制度」について説明）

【井上会長】 八王子市としてどれくらいお金を持ち出すのですか。

【橋本子育て支援課長】 年に8, 800万円くらいです。

【井上会長】 委員の方々から、何かございますか。

【田中委員】 確認ですが、自己負担の部分はそのまま残るのですか。

【橋本子育て支援課長】 はい。残ります。その点は引き続き検討してまいります。

【井上会長】 他に何かございますか。よろしいですか。

では、次に木育推進事業について、事務局から報告をお願いします。

【平塚子どものしあわせ課長】（資料「平成 27 年度八王子市木育推進事業について」について説明）

【井上会長】 育成計画では、子どもたちに八王子を知ってもらおうということが記載されていました。八王子のアイデンティティーを感じてもらうには、山、森の存在は大きいと思います。一方で、子どもたちの意見には、自然があっても使わせてもらえないという意見もありました。このような取組で子どもに自然を身近に感じていただいて、使ってもらえたらいいと思います。

また、こうした取組は、一回きりにならないよう、継続することが大事です。

【平塚子どものしあわせ課長】 この事業が続くよう、市民団体を育て、関連する団体をつないで官民協働の木育のネットワークを作りたいと思っています。

【井上会長】 初めて取り組むことなので、いろいろ課題も出てくるかと思います。委員の方々も見に行ったりして、感じたことがあればこの場でお伝えいただければと思います。

それでは、今日の協議事項に入ります。

子どもにやさしいまちづくりの推進というテーマの中で、今、討議しているのが子どもたちの参画をどう実現していこうか、ということです。なぜ、子どもの参画が必要か、ということを再確認しつつ、進めたいと思います。子どものしあわせ課長から子ども育成計画における子どもの参画について、簡単にお話をお願いします。

【平塚子どものしあわせ課長】（「子ども育成計画」における子どもにやさしいまちづくりの視点について説明）地域のコミュニティのいろいろなところで子どもと一緒にまちづく

りを進められるような仕組みにしたいと考えています。

【井上会長】ありがとうございます。育成計画では、八王子市の子どもをどう育てるかが大きな柱の1つとなっていて、前身の審議会から議論してきたところです。子どもたちが八王子を意識してくれなければ、八王子の文化、伝統などを継承していくことができません。現行の育成計画策定時には、児童館を中心に子どもたちの意見を丁寧に調査、集約してくださって、具体的な提起もされ、審議会委員とも協議し、議論した内容が育成計画に組み込まれた経緯があります。このような取組が1回きりのイベントで消えてしまわないよう、制度化していきたいと提案されているところです。

前回の議論で出た意見を、おおよそのところで資料にある図のようにまとめてあります。八王子の新しいところは、意見を吸い上げる仕組みとして、福祉だけでなく、教育との連携が含まれているところです。子ども会議の委員だけでなく、幅広く子どもの意見が聞けるような仕組みを作りたい、そういうイメージで動き出しています。4月以降のこともありますので、本日中にある程度考えをまとめたいと思います。

では、今後のスケジュールについて事務局から説明をお願いします。

【平塚子どものしあわせ課長】（資料「八王子市子ども会議設置スケジュール（案）」について説明）このほか、条例策定のスケジュールについては、現在調整中です。

【井上会長】少数者、いわゆるマイノリティーからの意見聴取をどうしようか、という部分を残して今回は終わってしまいました。その辺りも含めながら、意見をいただければと思います。

いかがでしょうか。

【岡崎委員】資料の図では、子ども会議の委員が16名となっています。16名では少ない気がしますが、根拠は何かあるのですか。

【平塚子どものしあわせ課長】八王子市の指針では、市民に意見を聞くような会議において、時間の制約や発言機会の確保を考慮して、16名以内と規定しています。

【岡崎委員】例えばテーマごとに8つの分科会を設け、分科会のリーダー、サブリーダー2名ずつで構成すれば、16名となります。そのうえで、各分科会は20～30人で構成する、という方法を採用しても構わないのですか。

【井上会長】話し合いができる人数を考えると、このくらいか、あるいは8人くらいでもいいのかな、とも思います。

マイノリティーの子どもの選任の方法も難しいですが、どうしたらいいでしょうか。

【立石委員】マイノリティーの子どもがマイノリティーの立場で参加するのは嫌かもしれませんが。ある程度意見が出た後で、民生委員さんとか、子どもの意見を聞ける人たちが、マイノリティーの子どもたちに「こういう意見がありますが、どう思いますか。」と問いかける方法のほうがいいかもしれません。

【井上部会長】将来的にはそうなると思います。学校単位だけでなく、いろいろな団体があります。スポーツクラブとか、ボーイスカウト、ガールスカウト。

【田中委員】であれば、団体を分科会のような位置づけにして、団体からの代表が委員16名を構成する、という方法もあります。そのほうが意見を吸い上げられる気がします。

【井上部会長】児童会、生徒会となると学校数がとても多い。

【立石委員】小学校、中学校であれば、ブロック単位ならそ上に載せられると思います。小学校は5ブロック、中学校は4ブロックです。似た地域でブロックが構成されているので、地域の特色も反映されると思います。

【平塚子どものしあわせ課長】この審議会のように、団体推薦と公募とで委員を構成してもいいかと思います。

【井上部会長】団体推薦といっても、子どもの場合は、団体の意見をまとめてきなさいというのはなかなか難しいと思います。たとえばブロック単位で生徒会の意見をまとめるのは困難だと思います。団体から選出しても、選出された子ども委員には自由に発言させてあげたいと思います。

【立石委員】同じような地域なら同じような意見を持っているものですし、発言は任せてもかまわないと思います。

【井上部会長】将来的にこの取組が浸透していき、生徒会の意見をまとめることもできるようになるかもしれませんが、最初は緩やかな子どもの集まりでいいのではないかと考えています。そこで、人数が20～30人になってしまうと、まとめるのが大変になってしまいます。

イメージするとすれば、児童館の子どもたちと私ども委員が意見交換したときの子ども
の人数、15名くらいの規模というところでしょうか。

【岡崎委員】仕組みについて提案したいのですが、まず選任、公募で50～60人集めていただく。そして子ども育成計画に掲げた3つの視点、あるいは4つの基本方針ごとに分科会をつくり、分科会の人数を十数名から20名とする。そこからリーダー、副リーダーを選出し、リーダー、副リーダーが集まった会議で各分科会から出た意見を話し合い、条

例化に向けて考えをまとめていく。そういう形はいかがでしょうか。

【井上部会長】運営する側の問題があるかと思います。4分科会を月に1回か2回、できるかどうか。

【平塚子どものしあわせ課長】基本構想・基本計画策定の際の市民会議をイメージされたの提案だと思います。市民会議と同じような運営形態を採れば可能性もあるかと思うのですが、子どもで構成する会議となると、厳しいです。

【岡崎委員】市民会議も色々な人が参加していましたから、最初はまとめるのが大変でした。そこから話をしていくうちにまとまっていった感じで、私としてはとても面白い経験でした。ファシリテーター役を委員がすれば、子どもたちでもできるのでは、と思うのですが。

【井上部会長】児童館の職員のような人がサポートに付かないと、子どもの場合は難しいかと思います。児童館の職員としては、どこまで可能でしょうか。

【岡崎委員】案のとおり16名集めたとして、欠席者がいればもっと少なくなりますし、16名では児童会、生徒会との連携というのも難しいかな、と思います。

【平塚子どものしあわせ課長】子どもにやさしいまちづくりは、条例を作って初めてスタートが切れます。3つの視点は、そのあと未来にわたって継続するテーマですので、ひとまず条例づくりに力を置き、視点はそのあとのテーマにするほうがよろしいかと思います。

【岡崎委員】いろいろな視点からの意見が条例づくりに必要なのではないのでしょうか。大人の視点の子どもにやさしいまちづくりと、子どもの視点の子どもにやさしいまちづくりは違いがあるかもしれません。

【井上部会長】どうテーマを置くかはこれから検討が必要ですし、どういった範囲の条例にするかもこれから決めなくてはなりません。

やり方ですが、16名なら16名の子どもたちに、どういうやり方をするかを彼ら自身に考えてもらい、その仕組みが条例に反映されていく、1年間ですから難しい面もありますが、そういう検討の仕方ではよろしいかと思います。おそらく子どもの意見を集めること自体もテーマになるでしょう。

【田中委員】そこを子どもに聞けば、大人とはまた違った発想が出るかもしれません。

【井上部会長】この子ども会議は、まず企画する部隊としてスタートしてもらえばよろしいのではないのでしょうか。

【中込副部会長】理想は色々ありますが、時間の制約もあります。際限なく議論し続ける

こともできませんので、ある程度は大人が支援しないとイケません。

【井上部会長】その支援するファシリテーター、サポーターをどうしましょうか。大人が誘導してはイケないですし、技能のある方が必要なのですが、児童館の職員は入っていただけののですか。または、青少年リーダーという立場の人は八王子市にいますか。いければ、そういった方にさせていただくことはできないでしょうか。

【事務局】青少年リーダーはいるのですが、子ども会をまとめるという役割であって、意見を吸い上げるとか、まとめるとか、そういう仕組みはありませんし、ファシリテートの勉強もしていないので、できないと思います。

【井上部会長】児童館の職員はどうですか。

【佐藤児童青少年課長】児童館職員には児童館職員として館の管理運営や企画事業の運営がありますから、あまり多くは対応できません。

【井上部会長】私たち分科会の委員がある程度担うことができたとしても、子どもとの関係づくりをしていただく市の職員がいないと、子ども会議が成り立たないです。将来的には予算要求、人員要求をしてもらえればと思いますが、当面どうするか。要綱案の4条の部分を、行政側で検討していただくようです。

要綱案の確認をしておきますが、1条、2条はいいですね。3条の年齢の範囲についてはどうですか。年齢ではなく、小学校6年生から高校3年生ままで、という表記の方法もあります。

【平塚子どものしあわせ課長】わかりやすい表記を検討します。

【岡崎委員】16人のうち、公募と選任の人数比はどうなりますでしょうか。

【井上部会長】個人的には公募で半分くらい来てほしい気がします。

【岡崎委員】公募の選定基準や年齢のバランスが気になります。

【中込副部会長】公募の場合は、何か自分の思いを文章にして書いてもらうようになりませぬ。

【井上部会長】そうですね。抽選というわけにはイケないと思います。「八王子の未来をどのように作っていきたいですか。」「もしあなたが子ども会議に参加することになったら、どんな意見を言いたいですか。」といった問いかけを基に書いてもらい、選考する、というイメージではないでしょうか。

【石田委員】子ども議会のときは、公募で15名募集し、作文のテーマは「私が好きな八王子」「私が市長だったら」「こんなまちに住みたい」だったようです。公募の他に地域推

薦があり、計30名の予定だったところ、結果的に42名で行ったそうです。

【田中委員】多いですね。

【井上部会長】会議として成り立ったのでしょうか。

【石田委員】委員会に分かれて行っていたようです。

【井上部会長】今回はテーマを絞らなくてはならないので、当面は1つの会議体で私たち委員と意見交換できる母体をつくっていただきたいです。

事務局には、次回までに基準、応募要項などを提案していただきたいのでよろしく願います。

では次、5条の部分、任期はどうしましょうか。2年とか。

【田中委員】2年。

【井上部会長】2年で再任は妨げない、とか。

【中込副部長】任期中に18歳を迎える子どももいるかもしれません。

【井上部会長】協議の継続性を考えると、任期中に18歳を迎えても期間中は努めていただくほうがいいと思います。

いかがでしょうか。よろしいですか。

(「はい」との声あり)

【井上部会長】では6条、「市が招集し、」とありますが、招集するのは市でよろしいでしょうか。実質的には市が招集することになるかと思いますが、子どもたちの主体的な会議であることを前面に出すためにも、「市が」は除いた方がいいかもしれません。いかがでしょうか。

【平塚子どものしあわせ課長】一般的には「誰が」という主語を置くかと思いますが。

【井上部会長】普通は、会議の長がするのでしょうか。ここは仕方ありませんか。市を入れたままにしましょうか。

では7条、ここはよろしいですか。私たち委員も出席したいですし、あるいは子どもたちが誰かを呼んで意見を聞きたいという場合もあるかもしれません。よろしいですか。

8条は、子どものしあわせ課が会議の通知や記録をしていただくということですね。よろしいでしょうか。

では、要綱全体、このようなところでいかがでしょうか。ご意見ございますか。

事務局から何か補足はありますか。

【平塚子どものしあわせ課長】任期は2年としていますが、実際の活動期間は、素案がで

きあがるまでの1年くらいになるうかと思います。

【石田委員】ちなみにこの会議の前の議事録を見ますと、小学校5、6年生からと書いてありますが、要綱案では12歳からになっています。5年生は含めなくてよろしいのですか。

【井上部会長】そうですね。学年が切り替わるタイミングもありますし、この部分、いかがいたしましょうか。

【中込副部長】児童会にはアンケートのような別の方法で意見を聞くのも1つの手段かと思います。

【岡崎委員】小学生の意見を聞くことはとても大事だと思いますが、実際に会議の場に入って小学生が高校生と一緒に話をすると、年齢差をとて大きく感じると思います。小学生が率直に意見を言えるかどうか、心配です。

【中込副部長】小学生からすれば強いプレッシャーを感じるかもしれません。意見しやすい会議となるよう、ファシリテーターやサポーターが注意を払う必要があると思います。

【井上部会長】その点、児童館の子どもが中心となって行った子ども意見発表会ではどうでしたか。

【事務局】児童館では、会議の場以外でも、普段から高校生が小さい子どもの意見を自分たちできちんと吸い上げてあげる、という子ども同士の関係性構築のプロセスを大切にしてきました。それがあって、小さい子どもも自由に意見が言える環境が整っていました。しかし、普段交流していない子どもたちが集められた会議の場で、小さい子どもが自由に意見を言えるかといえば、それは難しいと思います。

【井上部会長】皆さん、いかがでしょうか。

【立石委員】近頃は部活でも先輩に対しお兄ちゃんのように接している姿を見かけますし、ものおじしない子どもが増えてきています。この会議への参加を了承してくれるような子どもであれば、平気かもしれないな、と思いました。

【岡崎委員】16名のうち、2名程度が小学生だとすると、大きい子に囲まれる状況になってしまい、萎縮してしまわないでしょうか。

【立石委員】この場のようにかきこまった形にしなくても、初めにコミュニケーションをとってから会議に入ってもいいのかと。

【田中委員】小学生でも言える子は言えるのではないのでしょうか。

【井上部会長】選ばれて参加する子どもであれば、大丈夫かな、という気もします。昔に

比べ、今の子どもたちの間では上下意識がなくなってきています。中学生では、1年生が1番偉そうにしていることもあります。

【荒井委員】まさにそのような感じですか。部活でも1年生から3年生まで、みんながお友達のような感じです。

【井上部会長】今回の委員の年齢の範囲は、期待も込めて小学校5年生からにしてみてもどうでしょうか。いかがでしょうか。

【平塚子どものしあわせ課長】中学生は小学生を経験していますので、中学生に小学生の時のことを聞けば足りる、といった考え方もできると思いますが、いかがでしょうか。

【石田委員】経験はあるのですが、中学生になると中学生の視点になってしまいます。今の小学生の意見を聞いた方がいいと思います。

【中込副部長】私も同様の考えです。幼い意見でも、少人数でも、聞いていただけたら意見の幅が広がると思います。

【井上部会長】委員の皆さんにもサポートしていただくようになるとは思います、大丈夫ですか。

【田中委員】それでも小学生はいてほしい気がします。

【井上部会長】では、小学5年生から、ということよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

【井上部会長】学年で規定するか、生年月日で規定するかは、事務局で検討していただければと思います。募集方法も含め、また次回に事務局から案をいただければと思います。

では、本日はこれで終了します。